

■□要旨■□

1. 社会の変化と人生のルール変更について

20世紀の「成長社会」では「正解」に向かって「頭の回転の良さ」を発揮し、「情報処理」をしていく『正解主義』で良かったが、21世紀の「成熟社会」では、「納得解」に向かって「頭の柔らかさ」を発揮し、「情報編集」をしていく『修正主義』に変わる必要がある。

2. 「情報編集力」を磨く

一つの手法として、以下①と④の「自分プレゼン術」をアクティブラーニングした。

※自分プレゼン術は、①キャッチフレーズ、②+モード、③-モード、④Q&Aの4通り相手を見極めた上で適切な「自分プレゼン」を行い、「共通点」をより多く見つけていくことで「情報編集力」を磨くと共に、距離感を近く(両者の脳を繋ぐイメージ)することが出来る。

3. 時給の差とは

現在の「日本人の時給」は800円～80,000円と幅広く、最小と最大の差は100倍にもなる。この差は「1時間あたりに生み出す付加価値の差」とされ、時給が右側(80,000円側)になるにつれ、信頼等「他者から与えられる信任の総数(クレジット)」が大きくなることが分かった。この「クレジット」を大きくするには希少性を持つ必要がある。

4. キャリアの掛け算により、希少性をゲットする

1つのキャリアを身につけるのに約10,000時間(5～10年)で、1/100の人財になる。
2つのキャリアを身につけると1/100の人財の掛け合わせで1/10,000の人財になれる。
ここで安心してしまいがちだが、3つ目のキャリアを身につけることで立体的にすることが出来る。
3つのキャリアで1/1000,000の人財(オリンピックメダリスト級)になれる。
さらに経験により深みが出ると三角錐で、この体積がクレジット、一部現金化したものが報酬である。
※2つのキャリアでライフラインを安定させてからの、3つ目のキャリアをいかに遠くに踏み出せるかどうかで、体積の大きさは変わってくるので、3つ目が重要なポイントとなる

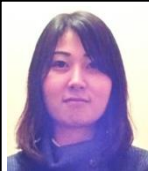
5. コミュニティづくり

人生約90年、悔いのない人生を謳歌する為にも山登りを単体で考えず、連山(連峰)として捉えておくことが大事だと分かった。

また25～55歳頃は特に、仕事だけでなく趣味や地域等によるコミュニティづくりも意識し、それぞれの山を同時に登っていけるようにする必要がある。

■□今回の学び ひとことでいうと■□

多くの経験、コミュニティ等による他者との関わりを通じて「教養」や「情報編集力」を向上させること、自己の市場価値(希少性)を上げることで、人生が豊かになっていくということが分かった。
また、現在の「成熟社会」には「正解」はなく「納得解」を見つけていくことが重要なので、柔軟な発想、適切な分析より「情報編集力」を磨く必要がある。



■□感想■□時代の変化も含め、柔軟な対応が21世紀には求められていると感じました。クレジットを大きく出来ると、人生の自由度も拡張するということが分かったので、これからも好奇心、チャレンジ精神、ポジティブシンキングを発揮して交流の幅を広げつつ、「3つのキャリア」を意識して3つ目の検討を進めると共に、2つのキャリアを確実にして人としての深みも含めて「希少性」を向上させていきたいと思いました。